

世界とつながるはじめの一步

Vol. 附属中学校×聖公会林護紀念中学校（香港）



『附属中学校が聖公会林護紀念中学校（香港）を訪問し、学校交流を行いました!!』

佐賀大学教育学部附属中学校（古賀勝利校長）は、平成 26 年度から佐賀県が取り組んでいる「世界とつながる佐賀県青少年交流推進事業」に参加しています。本年度は、平成 28 年 9 月 23 日（金）に、附属中学校の生徒 16 名と引率者 3 名の計 19 名が交流相手校である聖公会林護紀念中学校を訪問し、交流を行いました。聖公会林護紀念中学校との交流は互いの文化を知ったり、自分の考えを表現したりするよい機会となりました。

1. まず初めに、自己紹介や学校の説明を行いました。



自己紹介では、自分の名刺を渡し、自分の趣味や特技を披露していました。ジェスチャーを交えながら、自分の想いを一生懸命に表現していました。互いに笑顔があふれ、和やかな雰囲気となりました。



また、学校の説明では、互いの学校行事や生徒会活動について説明していました。運動会や文化発表会の活動の様子には関心が高く、見入っている生徒が多かったです。

2. 次に、SNS上でのいじめについての討論を行いました。



最初に、SNS のメリット、デメリットについて話し合いました。その中で、SNS 上においても、いじめがあることを知りました。SNS では言葉が足りなくて誤解されたり、自分の想いが上手く伝わらなかったりすることがあるので、大切なことは直接話すべきだという意見がありました。



また、トラブルが起こった場合は直接会って話し、すぐ解決することが大事だという意見がありました。

3. 最後に、日本の文化を紹介し、親睦を深めました。



文化紹介では、習字や浴衣について説明していました。実際に字を書いたり浴衣を試着したりしてもらいました。香港の人たちは初めての体験に、たいへん喜んでいました。他にも、折り紙や紙風船などを使って、楽しく遊んでいました。日本らしさを紹介することができ、生徒たちはとても満足そうでした。このような文化交流を通して、互いに親睦を深めることができました。



【感想】

- ◎英語を完璧に話せなくても、笑顔やジェスチャーで、自分の考えを伝えようとする姿勢が大事だと思いました。（3年男子生徒）
- ◎交流を通して、海外に通じるだけの英語力をつけることの大変さを感じました。今学校で習っている文法的な英語はもちろん大切ですが、“会話する力”は、また別に大切であり、必要なことだと強く感じました。（3年女子生徒）
- ◎討論では、林護中でも日本と同じように SNS 上でのいじめが起きていて、似たものがあるなと感じました。（2年女子生徒）
- ◎今回、林護中の生徒との交流で学んだことを学校や佐賀県、日本にしっかりと発信していきたいです。（2年男子生徒）

【交流の成果と今後の展望】

聖公会林護紀念中学校との交流会では、日本の文化を紹介したり、ディベートを行ったりしました。その中で、外国のことを知るだけでなく、自分たちの国についてもっと知るべきだということに気づかされました。これは、海外に行ったからこそ分かることだと思います。今回生徒たちは積極的に活動に取り組み、大きく成長できました。今後もこの交流を続けていきたいです。

また、聖公会林護紀念中学校の方からも附属中学校を訪問したいというお話があり、実現することができればと思います。現在の交流を今後さらに深めていくことは、日本と香港をつなぐ架け橋の1つになるのではないのでしょうか。

